

今までの議論を踏まえたこれからの学校づくりの方向性

A 既に取り組んでいること 来年度以降取り組んでいくこと

1 多くの児童生徒が関わるができる取組を推進します。

① 学校間連携を促進していきます。(合同体験活動等)

・連携行事の推進のための交通手段の支援

② 意見交流を通して、コミュニケーション能力を高めます。

(総合的な学習の時間の取組の交流や合同発表会、合同英語活動)

③ オンライン環境の整備をしていきます。

2 幼稚園保育園こども園と小学校の連携

① 教育プログラム(架け橋プログラム)を作成し、幼稚園保育園こども園と小学校の切れ目のない指導をしていきます。

② 園小交流を推進し、園児と児童が楽しく交流し、ギャップの解消に努めます。

3 「遊び」を通して、健康体力増進と社会性育成を育みます。

① 日本体育協会の提唱するACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)を幼稚園小学校で導入していきます。

② 子どもたちが楽しんで積極的に体を動かし、遊びを通して社会性を育成していきます。

4 困り感を抱える児童及び保護者への支援をしていきます。

① 専門的知識を有する支援員を配置し、関係諸機関と連携して、保育園からの「困り感」を抱える保護者や児童への支援に当たります。

② 学校作業療法士のアドバイスを受けて児童生徒の健全育成を図って行きます。

B 令和13年度を目処に推進していくこと

1 地域との連携を進めていきます。

① 地域学校協働活動本部を各小学校区に設置します。

② 校内地域連携センターを設置します。

③ 総合的な学習の時間「池田町」(仮称)を通して郷土の学習を推進していきます。

C 将来的に目指す方向

1 地域の教育環境を整備していきます。